
大塚君と書道

源雪風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大塚君と書道

【Nコード】

N0144K

【作者名】

源雪風

【あらすじ】

美少年大塚君と主人公が、授業をちよつとさぼって遊びまくる。

三時間目の書道の時間。

教室で書道をした。

私の隣に座っている大塚君は、大変眠そうだ。

もし大塚君が字を書いている最中に眠ってしまったら、あのまんじゅうのようにふんわりした頬や、ぽよんとした鼻、ピンクのチュールリップの花びらのような唇に、この世の闇を集めたような墨汁がこびりつくことだろう。

大塚君も、目覚めたら真っ黒なんて望んでないはずさ。

今、私の手元には、まだ下ろしていない筆がある。

もし、大塚君がピンチになったら、この白き筆で、うなじをこちょこちょして、起こしてあげよう。

大塚君は物分りがいいから、理由を話せば70パーセントは理解してくれる。

大塚君は何度も、うとうとしている。

私は左手に下ろしていない筆を持ち、右手はボロの筆で習字する。

ああ二刀流、いや二筆流だ。

左手にも筆を持つことで素早く対処できる。

大切なのは、私の作品ではなく、大塚君の青春！

きつと顔にべったりお墨付きの大塚君は皆に笑われる。

大塚君は、ガラスのハートを持っているから、墨ベタ事件が一生のトラウマになるかもしれない。

それを防げるのは、今ここにいる私だけだ。

おっと。大塚君の首が、がくりとうなだれた。

今こそ、こちょこちょだ！

こちょこちょこちょ……

「んぬう。」

大塚君は一声鳴いただけで、目を覚まさない。

仕方ない。大塚君の肩に、そっと手を置いて、軽くゆする。

大塚君は、くるとこっちを向いて、

「何ですか、もおつ。」

と、ふざけ半分で怒った。

私は、なぜこちよこちよしたか説明した。

「そうだったんですか。じゃあ、お礼にこちよこちよ返した。」

そうして、いつの間にか新品の筆でにくすぐり合戦になったとさ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0144k/>

大塚君と書道

2011年6月30日20時02分発行